

音楽堂で聴く聲明 Sho-myo

《西行マンダラ》 深き山に澄みける月を...



本公演は真言・天台密教の最重要儀式のひとつである「曼荼羅供」(まんだらく)に用いられる古典聲明を骨格に、気鋭の作曲家・武智由香氏の創作曲(聲明・箏歌ほか)を組み込んで構成したもので、2007年に音楽堂にて初演されました。今回は、多くの方々のご要望を受け再演するものです。

天台・真言聲明の第一人者が率いる「聲明の会・千年の聲」総勢30名の鍛えあげられた声と、日本の伝統楽器の名手達の演奏で現代の祈りの音楽を皆様にお届けします。

公演概要

公演名：音楽堂で聴く聲明 《西行マンダラ》 深き山に澄みける月を・・・

作曲：武智由香 構成・演出：田村博巳

会場：木のホール 神奈川県立音楽堂

公演日時：2009年11月3日(火・祝) 15:00開演(14:00開場)

*14:30からプレ・トーク有り 公演時間約90分。途中休憩はありません。

出演：聲明の会・千年の聲

天台聲明 海老原廣伸＋七聲会

*都合により龍笛は八木千暁から酒井麻椰に変更となりました。

真言聲明 新井弘順＋迦陵頻伽聲明研究会

酒井麻椰*(龍笛) 宮田まゆみ、石川高(笙)、下野戸亜弓、鈴木真為(箏)

草間路代(十七絃) 神田佳子、池上英樹(パーカッション)

チケット料金：全席指定 一般 4,500円 / 特別ペア券お二人で ~~8,000円~~ sold out

/ 学生券(24歳以下) 4,000円 **【残席僅少】**

特別ペア券、学生は音楽堂チケットセンター、県民ホールチケットセンターのみで取扱い(枚数に限りがございます。) かながわアーツ倶楽部会員は10%割引(学生券を除く) 045-633-3763(友の会事務局)

この公演の内容についてのお問い合わせ)

神奈川県立音楽堂 プロデューサー 伊藤由貴子(いとうゆきこ) 担当 高瀬 聖(たかせひじり)

電話 045-263-2567 FAX045-243-6216 e-mail takase@kanagawa-af.org

チケット・お問い合わせ

音楽堂チケットセンター 045-263-2255 (受付時間 13:00~17:00 月曜休)

県民ホールチケットセンター 045-662-8866 (受付時間 10:00~18:00)

インターネットチケットセンター(24時間受付) <http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc>

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード324 817)

イープラス <http://eplus.jp/>

高島屋横浜店チケットショップ(窓口のみ) 045-311-5111

託児サービス：お申し込み

(有)チャイルドサービス遊 045-774-2711 (月~土曜 9:00~18:00)

料金：お子様1名につき2,000円。要予約・定員になり次第締め切らせていただきます。

出演者等はやむを得ず変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催：神奈川県立音楽堂(指定管理者：財団法人神奈川芸術文化財団)



聲明公演の魅力(1)

**聲明はグレゴリオ聖歌とともに世界で最も古い宗教音楽。
心の安らぎをもたらすヒーリング音楽を、クリアな残響の音楽堂で聴く！**

聲明は、仏教の儀式で僧侶が仏の教えを讃嘆する仏教の聖歌です。仏教とともにインドで生まれ、日本には6世紀に伝来しました。752年の東大寺大仏開眼供養の大法要の際には、約1万人の僧侶が集まり、420人で聲明を披露したとの記録があります。

平安時代末から鎌倉時代にかけて発達し、1472年には聲明の楽譜集が高野山で出版されましたが、これは現存する世界最古の印刷楽譜とされています。

1200年の伝統を誇る聲明は、グレゴリオ聖歌とともに世界で最も古い宗教音楽であり、その独特の響きは、現代の私たちにとって、心が安らかになる魅力を持ち、大きな感動を与えてくれます。

仏教では「如来の正覚の大音は十方に響きわたる」という音のイメージを理想としています。

お釈迦様の悟りの内容をお話になる声が宇宙の隅々にまで響きわたり、届かないところはどこにもないということです。

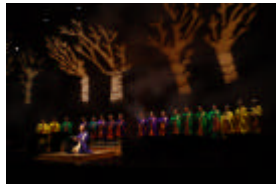
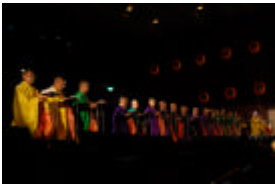
明瞭感のあるクリアな音響で多くのファンを持つ《木のホール》音楽堂で、湧き上がるような「聲明の響き」を体感し、優しく癒されるひと時を過ごしてみませんか。

聲明公演の魅力（2）

現在望みうる最高の聲明！ 天台宗・真言宗の聲明の第一人者が率いる「聲明の会・千年の聲」総勢30名の鍛え上げられた声の魅力と、日本の伝統楽器の名手たちの演奏で聲明音楽の真髓が味わえます。

日本の聲明の二大潮流である真言宗と天台宗の指導者が宗派を超え、聲明の継承と発展を目的に結成した「聲明の会・千年の聲（こえ）」は、古典聲明だけでなく、現代の作曲家に委嘱する活動も行い、聲明の持つ可能性を追求し日々研鑽を重ねています。

龍笛、笙、箏など日本の伝統楽器についても、名手たちが揃い演奏することから、現在望みうる最高の聲明に触れることができます。



聲明公演の魅力（3）

歌人としての魅力を放つ西行の「修行者」としての境涯を、聲明を通して垣間見られるよう、創作聲明を加えた構成です。

西行は「桜の花の盛りの頃、桜の木の下で死にたい」と詠み、釈迦の事跡を追体験するかのよう
に陰暦二月十六日、釈尊涅槃の日に入寂（没）しています。

平安末期の動乱の世に生まれた西行（1118～1190）は23歳で出家し、2度の吉野熊野で修行を
経験しました。この「西行マンダラ」では、西行が出家から修行、旅、入寂の際に詠んだ和歌（全
7首）をもとに作曲家・武智由香が創作聲明を作り上げました。

真言行者として歌道修行と仏道修行を一致させた西行という稀有な人間の心のありようを、聲明
の響きを通して浮き彫りにしていきます。

【取り上げた西行の和歌7首】

「山ふかくさこそ心はかよふとも すまではれをしらん物かは」

どれほど山の奥深くまで分け入ろうと心を通わしても、実際に住まないで山住みのあわれを知ることがあるか。

「深き山に澄みける月を見ざりせば 思出もなき我身ならまし」

深い山、ここ深仙の空にかかる澄んだ月を見なかったならば、何の思い出もないわが身であったことだろう。一生の思い出となる月を見ることができたよ。

「峯の上も同じ月こそ照すらめ 所柄なるあはれなるべし」

大峯山の頂をも同じ月が照らしていることであろうが、ここ深仙に照る月が特にあわれに感じられるのは、場所がらゆえであろう。

「月澄めば谷にぞ雲はしづむる 峯吹はらふ風にしかれて」

中天高く月がのぼってさやかに澄みわたると、雲は大峯を吹きはらう風に押し敷かれて、谷に沈んでしまったようだ。

「やみはれてころのそらにすむ月は にしの山べやちかくなるらん」

闇もすっかり晴れて空に澄んでいる月は、そろそろ西の山の端に近づいているのであろうか。わが心もようやく迷いから覚めて、往生する日が近づいているのであろうか。

「山端に隠るゝ月をながむれば われと心の西に入るかな」

西の山の端に隠れる月を眺めていると、自然に自分の心も極楽浄土のある西に引き入れられることだ。

「ねがはくは花のしたにて春死なん そのきさらぎの望月の頃」

どうか、春の、桜の花の咲く下で死にたいものだ。あの釈迦が入滅なさった二月十五日頃に。

聲明公演の魅力（４）

新作オーケストラ曲を発表し注目を集める気鋭の作曲家・武智由香の創作声明で新たな声明の美しさを発見する。



創作声明は、近年海外での研鑽と活躍を重ね、その才能がますます注目される気鋭の作曲家・武智由香さんが、音楽堂の委嘱を受けて2007年に作曲したもの。武智さんはこの作品で声明と初めて出会い、その伝統的な声の作法を学びながら、新たな魅力を発見し、古典声明と響きあう世界を生み出しました。現在では古典といわれる曲も、作られた当時は新作であったように、新たな創作が次の伝統となっていくのです。

武智さんは鎌倉生まれ。東京芸術大学音楽学部作曲科を首席卒業、同大学大学院・修士課程修了。作曲を近藤譲、高橋悠治、故松平頼則の各氏に学び、現在イギリス、フランス、日本を拠点に活動を展開しています。2001年に横浜市文化振興財団からの委嘱オーケストラ曲を大野和士指揮で初演、今年6月にも神奈川フィルの委嘱（指揮：金聖響）によりオーケストラ曲が初演され注目を集めています。98年芥川作曲賞ノミネート。99年度村松音楽賞受賞。

聲明公演の魅力（５）

声明は邦楽や古典芸能のルーツであり、日本文化の源流を見つめ直すまたとないチャンスです。日本の古典文化について興味をお持ちの方や外国から来られた方にも、ぜひお聴きいただきたい催しです。

物語を音楽的に表現した最初が声明であり、平曲や謡曲、浄瑠璃や浪花節、落語など日本の古典芸能は、声明から発展したものであり、声明は日本音楽の源流と言われています。

江戸時代に入って、人形浄瑠璃の義太夫節や、清元節・常盤津節も歌舞伎の中に取り入れられていきました。邦楽、古典芸能のルーツは声明にあることから、多くの方々に触れていただきたいと思います。

聲明公演の魅力（６）

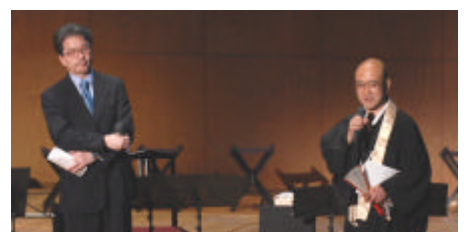
普段は寺院の儀式で行なわれる声明。「音楽」としてコンサートホールで聴けることはめったにありません。しかも、天台声明と真言声明の両方に触れられる絶好の機会です。

声明は仏教の伝統的儀式音楽であり、各宗派により記譜法も異なります。真言声明は男性的で、ダイナミックでゴツゴツした感じですが、天台声明は女性的で優雅なもので、ゆったりして瞑想的だと言われています。天台・真言の声明に一度に触れられるまたとないチャンスです。

聲明公演の魅力（７）

開演前の「プレ・トーク」で第一人者・新井弘順氏から学んでから聴く！

「声明って、難しくない？」とお感じの方も多いと思います。そんな方は、少し早目に音楽堂にお出かけください。公演当日の14時30分（開演30分前）から、声明の第一人者の新井弘順氏が声明についてお話しします。司会進行は、本公演の構成・演出を担当している田村博巳氏です。



聲明公演の魅力（8）

僧侶たちの衣装やたたずまいの美しさにもご注目ください。

聲明公演で執り行われる儀式において、さまざまなしぐさ、足音や衣擦れの音まで、すべてが聲明音楽を成立させるための重要な要素です。

コンサートホールの舞台上、僧侶の衣装の美しさを再発見できるかもしれません。



兵庫公演

佐渡裕が芸術監督を務める「兵庫県立芸術文化センター」と連携し、兵庫公演が実現しました。

音楽堂での公演の前に、指揮者の佐渡裕氏が芸術監督を務め多くのファンを持つ「兵庫県立芸術文化センター」での公演も予定されています。

聲明の素晴らしさをより多くのお客様に聴いていただきたいという想いを共有できる「兵庫県立芸術文化センター」と連携し兵庫公演が実現しました。

兵庫は 2,000 席規模の大ホールでの公演ですが、チケット発売後、直ぐに残席僅少となってしまった大人気公演となっています。（ 2009.08.01 現在：完売）

《兵庫公演》

2009年11月1日(日)14:00開演(13:00開場)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

完売御礼 ~~A5,000円 / B1,000円 / C3,000円 / D2,000円~~ (税込 全席指定)

問い合わせ

芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255

*10:00~17:00 月休(祝日の場合は翌日)



Hyogo Performing Arts Center

プロフィール

	<p>聲明の会・千年の聲(しょうみようのかい・せんねんのこえ) 千二百年の伝統を誇る日本の音楽の貴重な財産である「聲明」。その伝統の継承と発展を目的に、日本の聲明の二大潮流を成す真言宗・天台宗の指導者が宗派を超え結成した。 97年に旗揚げした「聲明四人の会」+シャブダの名称を、中堅、若手の著しい成長から「聲明の会・千年の聲」と改め、更なる飛躍を目指している。定期公演「千年の聲」を基盤に、古典の名曲と優れた作曲家に委嘱する新作聲明を発表し、聲明のもつ伝統の深さと現代への可能性を追求している。05年11月には2枚目となるCD「存亡の秋」(鳥養潮 作曲/ビクターエンターテインメント)をリリースした。</p>
	<p>武智 由香(たけち ゆか) 東京藝術大学を首席卒業、大学院修了。1998年芥川作曲賞ノミネート。99年村松音楽賞受賞。2003年タングルウッド音楽祭フェロー作曲家。05年フランス国立音楽音響研究所(IRCAM)の作曲家研究員。03年より英国王立音楽院の博士課程 PhD 作曲家として招聘され、04年からは文化庁・芸術家在外派遣研修員として主にロンドンを拠点とし現在に至る。作品はタングルウッド音楽祭、サグレブ国際現代音楽祭、英国ロイヤルフェスティバルホールのL.ペリオ音楽祭など国内外の主要な音楽祭・演奏家、伝統楽器奏者により委嘱演奏されている。07年第14回「日本現代芸術奨励賞」を受賞。09年6月横浜開港150周年記念委嘱作品オーケストラのための「オルミエール タン」が初演され好評を博した。</p>

《お客様アンケートより(2007年公演)》

- ・心が安らかになりました。
- ・初めて聴いたけれど、なんとも言えぬ感動があった。
- ・荘厳さの中に現代性もあり 好企画だ。素晴らしさに涙が出た。
- ・日本の宗教音楽の夜明けた。
- ・すっきりと余計なものがなく とても良かった。特に西行の歌の意味を改めて深く感じました。
- ・新作と聲明の調和が取れて大変良かった。
- ・聲明 箏 笙 龍笛などの全般の構成がとても良かった。1回の公演では惜しい。僧衣がきれいだった。